



廃棄物の処理はこのままでいいのか

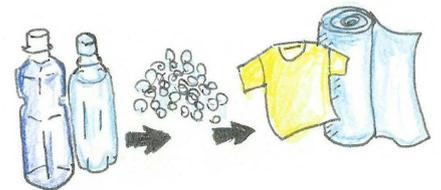
財政を圧迫する処理費用

1997年に建設されたクリーンセンターは、5年ほどたつと修理の必要が出てきました。これと同時期に進められてきたのが様々な資源ゴミのリサイクルです。スチール缶やアルミ缶の回収に始まり、ペットボトルが続き、さらにダンボールや雑誌類、てんぷら油の回収も行われるようになりました。昨年度の一般家庭のゴミ処理にかかる費用は、島民一人あたり年間33,703円。そのうち資源ゴミ処理・島外搬出処理のコストは一人あたり6,322円です。リサイクルはいいことなのに、今、施設の改修に加え資源ゴミの処理費用が町の財政を大きく圧迫しています。離島という環境でどれだけリサイクルが可能なのか、限られた財源でどう対策を立てればいいのかを考えるうえで、まずは実態を把握しておくことが必要と思い、現状をまとめてみました。

クリーンセンターの修理 2002年から始まった補修工事は、徐々に費用がかさみ、ここ5~6年は毎年約4千万円、昨年度は9千万円に達しました。八丈町の場合、燃やし続けるにはゴミの量が少ないため、いったんは炉を止めます。燃焼と冷却が繰り返されることが、炉を傷める大きな原因になっています。しかし、建て替えまでは修理をしながら動かし続けなければなりません。



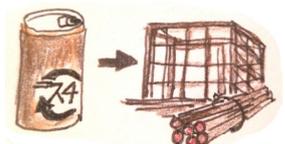
ペットボトル デポジット制度が終了した2003年から分別の区分が変わり、ペットボトルも資源ゴミとして回収し、圧縮したものを町が島外に搬出して売却するようになりました。その後、有明興業に直接売却し、処理を委託することで（売却額30円/kg、委託料43円/kg）、年間約200万円かかっていた処理費用が現在は半減しています。



飲料缶 スチール缶は他の金属ゴミと一緒にコスト計算しているの、単独の処理費用を算出するのはむずかしいということです。アルミ缶は、クリーンセンターで圧縮したものをすべてをちょんこめ作業所に譲渡しています（この他、ちょんこめ作業所は独自に回収処理しています）。



ダンボール、新聞紙、雑誌、古着 リサイクルすれば焼却灰が減ると期待され、2009年度から八丈建機に委託し回収が始まりました。当初は古紙の買い取り価格が高かったのですが、すぐに下がり、町が差額を負担する状況になりました。また、燃料費などが上がったため処理委託と収集委託をあわせた処理費用は年々増え、昨年度は1,300万円を越えました。



伐採木 伐採木も2009年度から八丈建機に委託して堆肥化され、土地改良剤として使われています。堆肥化で体積は4分の1になります。当初1トンあたり4,200円だった委託処理費用は燃料などの値上がりにより15,750円に上がりました。処理する量も徐々に増え、2015年度は1,500万円を越えそうです。同時に町は独自に破砕機付き油圧ショベルを購入し、中之郷処分場で土地改良材として再資源化する試行を始めています。

前ページより続く

発泡トレー 東京の事業者から無償で借りた減容機をクリーンセンターに設置し、2010年度から婦人会の協力で回収を始めました。処理費用は30～100万円かかっています。3年後から事業者の諸事情で回収が休止していましたが、現在再開に向け準備中だそうです。

廃油再生燃料 2009年に、町は廃油を燃料化する装置を300万円で購入し、拠点回収を始めましたが品質が安定せず、町営バスでの使用を断念しました。その後は年間処理料約30万円で精製作業を民間に委託し、現在は町の環境係の車（1台）で使っているだけとなっています。

有明興業の役割 上記の品目以外のゴミもたくさんあります。パソコン（資源有効利用促進法により、現在処理費用は利用者負担）や家電、楽器や布団、畳や家具、中には漁業者の廃船などの大きなゴミもあります。こうしたクリーンセンターで処理できないものは有明興業が受け入れ島外に搬出し、リサイクルできるものはしています。町との年間委託料は約3,200万円です。こうした一般廃棄物のほか、産業廃棄物である建設業者の解体ゴミなども処理法により有料で受け入れています。

住民、事業者、町、それぞれの課題 離島という環境で、資源ゴミは「島外搬出」という大きな壁に突き当たります。ゴミをリサイクルすることで財政を圧迫するジレンマはあるものの、住民の意識の向上には大きく貢献しているので、後退させるわけにはいきません。一方、持ち込みの粗大ゴミの有料化や生ゴミの堆肥化については、町は住民に対して積極的な協力を求めていると思います。

ニュースレター48号で紹介したように、2015年2月に視察した名古屋の食品会社は、毎日数万円の産業廃棄物の処理費用を払っていて、この負担を解消するために自前で先進的なゴミ処理装置を導入しました。事業者が出すゴミは産業廃棄物であって、事業者が自前で処理しなくてはなりません。八丈町では、一部の事業者の負担が軽いという実態があります。これは、事業者の責任というよりは、産業廃棄物処理に対する東京都の指導が不十分なためだと思います。離島の条件にあった、廃棄物の量に応じた適正な処理と負担が求められるべきです。

町は、クリーンセンターの建て替え計画、分別の仕方や処理方法、そして住民や事業者の負担の在り方について、きちんと方向を示す必要があります。ゴミ処理問題協議会でも一歩踏み込んだ議論を進めてほしいと思います。

パブリック・ロードレース

今年、エントリーは800人を越え、ますます注目される町の重要なイベントになってきました。ただ、これ以上参加者が増えたら授賞式の会場に全員が入りきれないような状況になっています。

あたたかなおもてなしで好評な懇親会や温泉の提供がこれからも続けられるように、会場や参加人数、参加費用など、町が考える課題

は多いと思います。

ランナーにとっては、沿道の応援がなにより励みになるそうです。私は毎年大声を張り上げて応援していますよ。皆さんもぜひ参加しましょう。





2015年12月議会 一般質問



1. 戦争遺跡の保存を動画で

今年は戦後70年にあたり、全国で戦争の記憶をとどめるための様々な催しが開かれました。八丈島でも、歴史民俗資料館で「八丈島と戦争」というテーマで、戦争遺跡の写真と当時の状況が解説されていました。八丈島の戦争に関する遺跡や資料は他に類をみない貴重なものが多いと言われ、観光資源としても価値が高く、町は次世代に残すために積極的に取り組むべきだと思います。

(1) 今ある戦争遺跡を誰にも分かりやすい方法で伝えていくには、動画で保存するのが適切と思うが、町の考えは。

(2) 戦争を経験した人の体験談も継承していくべきと考える。

町 (1) 歴史を風化させない取り組みは大切であり、文化財専門委員に検討してもらおう。

(2) 疎開した方、島に残った方など様々な立場での経験を継承することも重要と考えるが、具体的な方法は文化財専門委員にお願いする。

再質問 それでは文化財委員に丸投げだ。課長がまずこの問題をどう考えるかを聞いている。体験談の保存や可視化について、容易ではないが方法はある。

教育長 実行するという立場で委員にお願いするのであって、丸投げではない。いずれにしても、むずかしい課題もあるので人と時間が必要と考える。

2. 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた準備を

オリンピック・パラリンピックを5年後にひかえ、町として何らかの準備をすすめていると思いますが、まず実現すべきは公共施設の案内を4カ国語表記に改めることです。国際的なイベントに対する対策としてだけでなく、今後の島の観光にとっても欠かせない事業で、障がいをもった方や増えていく高齢者に対しても、バリアフリーのまちづくりは重要です。

(1) 公共施設、観光スポットの案内を4カ国語表記に。

(2) 公共施設や宿泊施設のバリアフリーの徹底を。

町 大きな経済波及効果が見込まれ、このチャンスを活かすための組織体制をつくる。外国人旅行者の誘致とオリンピック対応を連動させて、来島者の受け入れを考える。ソフト面では、島民の語学力向上や案内ガイドの養成も必要でそのための組織化。ハード面では、バリアフリーや英語表記は町内22カ所で整備できている。宿泊施設にも進めていく。参加国や競技団体に対しての事前合宿地の名乗りも東京都に提示した。wifiやQRコードの整備も合わせて考える。

再質問 町がいろいろ考えていることは理解できる。組織体制をつくることを強調しているが、4カ国語表記についても案内ガイドについても、組織づくりよりできることから、できる人から実践に移して行ってほしい。また、こうした整備に要する予算に対し都の補助金はあるのか。

町 国や都の補助金枠はいくつかあり、項目にあった財源を考えていく。

12月議会の一般質疑から

● **コミュニティセンターのテニスコートフェンス改修**・・・当初予算の4,500万円が3,000万円に減額になったが、工事はまだ手つかず。工期内に終わるのか。

町 12月7日に入札をする。工期は2月28日で工期内に終わるはずだ。

● **うき漁礁の設置**・・・現在2基設置している浮き漁礁は5年に1回更新しているが、全体の漁獲量に対して効果はどれくらいあるのか。また、古いものは回収しているのか。

町 全漁獲量に対して毎年約3割の水揚げがあるので、効果はあると認識している。また、古いものは回収している。

● **税の徴収率**・・・決算の意見書によれば25年度の町の徴収率は東京都で下から3番目になっていたが、26年度は改善されたか。

町 徴収率は向上したものの、残念ながら26年度も下から3番目だった。

● **廃棄物処理委託料**・・・当初予算に対し1,100万円も増加している。理由はなにか。

町 プラスチックなどの処理量が増えたため、800万円増加した。主な内容は廃船の処理。また伐採木の処理が300万円増えた。

全員協議会

1月22日に町は創生総合戦略の案を示しました。

1. **八丈町人口ビジョン** 年々減少する町の人口。何も対策を立てなければ45年後には4,200人に減っていくというシミュレーションを示した上で、出生率の上昇・子育て世代の転入促進・若者の雇用と転入促進などの施策がすべて実を結べば、減少を抑えて5600人程度になるという報告でした。

2. **八丈町まち・ひと・しごと創生総合戦略** 日本の人口が減少するなか、いま国が進めている地方創生策を実現するための地方の知恵が試されています。全国約1700の自治体のうち740ほどがすでにまとめているそうです。八丈町でも、26人のワーキンググループが何度も話し合いを重ね、ようやくこの総合戦略をまとめることができました。議員からは、「町の基本構想との整合性はできているのか」「掲げた数値目標をもっと大きく設定すべき」「核になるものがない」「これからの理想の人口はどれくらいか」「もっとインパクトのあるスローガンをいくつか掲げるべき」「独創性がなく総花的だ」など様々な意見や質問が出されました。町ではこれらを参考にして実行に移していくとのことでした。



編集後記

航空運賃特別委員協議会主催のシンポジウムが、昨年12月9日に多目的ホールで行われました。2人の講師は、厳しい現実を指摘したうえで、八丈町がどうすれば活性化できるか、いくつかアイデアを示してくれました。

ただ、それを実行するのは私たち住民です。一人一人が観光大使になって、「人を呼び、喜んでもらう」努力をしなければと強く感じました。